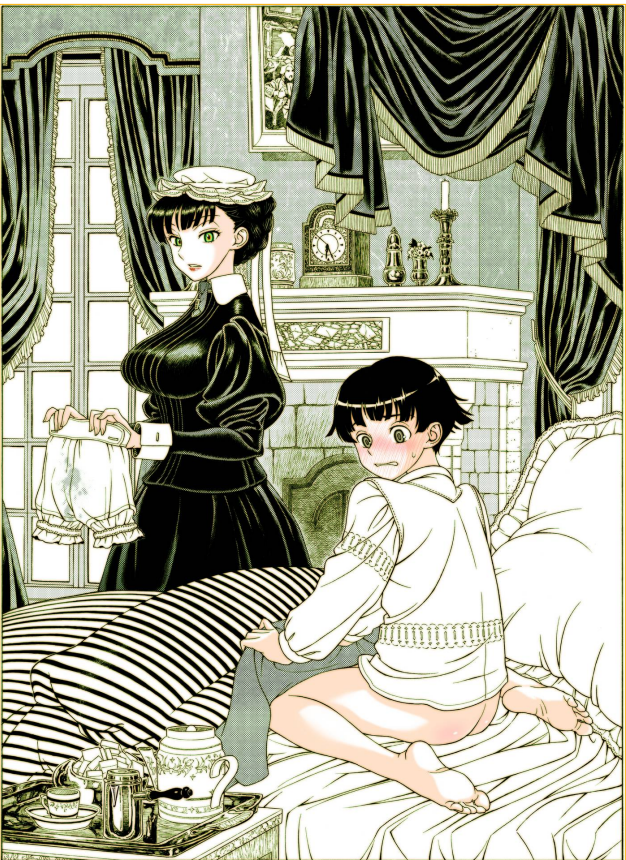


## プロローグ

それは朝の出来事であった。

小柄な少年が、天蓋てんがいつきの大きなベッドの上に上体を起こし、脇わきに立つ胸の大きな女中長メイスンを不安そうに見上げている。



この短い黒髪の少年は伯爵家の令息れいそくで、名をウィリアム・マルクという。

「ウィル坊ちゃまくらいのご年齢の男性に起きる生理現象です。なんの心配もありません」

今年で二十九歳になる黒髪の女中長トリスはそう言って、緑地に茶の混ざる淡褐色ヘーゼルの瞳を細めた。

まだ手足の伸び切らないウィルに比べると、トリスの背は頭一つ分以上も高い。